教職員不祥事への認識と対策は
服務規律の確保とコンプラ意識の徹底



工藤聡一郎
（至誠の会）

議員　教職員による重大な不祥事に対する認識と防止対策は。

教育長　教育への信頼を大きく損なう重大な問題と認識している。盗撮や性加害などは、人格や尊厳を傷つける悪質な犯罪行為であり、決して許されない。県教育委員会と連携し、未然防止を重要課題に位置づけ、服務規律の確保とコンプライアンス意識の徹底に取り組んでいる。校長会議や研修会に加え、各校で毎月の取組と年2回の職場研修を実施し、事例研究による意識向上を図っている。相談しやすい職場環境づくりを進め、不祥事のない教育環境づくりに取り組む。

議員　子どもたちが地域と関わることに対する市の認識は。

市長　子どもが地域の自然・歴史・文化・産業・人々と触れ合い、地域活動や体験活動を通じて関わることは、豊かな人間性や社会性、主体性を育み、ふるさとへの誇りや地域の一員としての意識を育てる上で重要だと認識している。単なる参加者ではなく、自ら考え、意見を出し、取り組む主体として捉えることが重要である。多世代との活動を通じ、地域を支える一員という意識や地域への愛着を育てたい。第六次総合計画に基づき、家庭・学校・地域・関係機関と連携し、地域で活動する環境づくりを進める。



地域の子どもが集まる公園

湾口防波堤を釣り観光の拠点にしては
観光につなげられる方法を検討する



井筒健太郎
（創政会）

議員　当市では一年を通して様々な魚が釣れ、遊漁船や防潮堤は多くの釣り客で賑わう。観光客を呼び込む「釣り観光」について市としての認識を伺う。

商工観光課長　釣りは三陸沿岸ならではの自然環境を生かした観光資源の一つだと認識している。釣り観光は当市の魅力を体感していただく機会を創出するとともに、宿泊や飲食、物販など地域経済への波及効果も期待できると考える。

議員　湾口防波堤を、単なる港湾施設としてではなく、釜石ならではの観光資源として、どのように位置づけているか。

市長　世界一の海洋土木技術、震災からの復興など、これまでの歴史や背景を踏まえた当市を代表する観光資源の一つであると捉えている。

議員　国土交通省では、地方創生の一環として釣り文化振興モデル港を募集し、防波堤を開放する取組がある。湾口防波堤の活用など、当市の海を釣り観光の拠点にしてはどうか。

産業振興部次長　湾口防波堤は陸地までの距離が遠く、津波発生時の迅速な避難が極めて困難な状況である。その他、安全確保の観点から困難であると認識している。

副市長　現状は職員も認識している。どのようにすればできるのか、またどのような形で観光につなげられるか検討させてほしい。



釣り観光の拠点として期待される釜石港